

		NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報	
		発行人/理事長 馬場 英男	
特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴		〒625-0036 舞鶴市浜 247 番地 (3階)	
		TEL/090-3281-7539 FAX/0773-63-9764	
		E-mail brick@iris.eonet.ne.jp	
会報 98号 平成 28年 11月 1日			
「NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ http://www.redbrick.jp/			
フェイスブックページ https://www.facebook.com/赤煉瓦倶楽部舞鶴-1575484726053495/?fref=ts			

1. 特集 『赤煉瓦に触れるドイツ7日間の旅』報告

理事長 馬場 英男 (会員番号 No. 8)

永年の夢であったホフマン窯発祥の地ドイツに旅し操業中のホフマン窯を視察するという企画を一念発起し、当法人主催で全国の赤煉瓦ネットワークの仲間に参加を呼びかけた。結果として参加者5名と当初見込みより少人数ではあったが、旅を敢行し大きな感動を得て無事帰国する事ができた。参加者は、都窯業(株)の河原輝雄さん、岡田煉瓦(株)の岡田敏夫さん、(一社)赤煉瓦倶楽部半田の馬場信雄さん、舞鶴からは小生と副理事長の梅本徳夫さんの5名である。

今回の旅の目的は3点あり、ホフマン窯視察のほか、ドイツの町並み探訪と8年越しに交流を重ねてきたドイツ北部の港町・ロストック市を訪問し親善を図ることであった。本会報では、まずホフマン窯視察を中心に特集として報告する。

旅の日程は10月1日から7日までの5泊7日の旅である。ちなみに時差は通常は8時間であるが、サマータイム期間(2016/3/27~2016/10/30)は7時間と決められている。したがって我々の旅の期間は7時間の時差となる。ちなみにドイツ現地時間午前8時なら日本は午後4時となる。さらに言うなら、日本の午前10時はドイツでは午前3時真夜中である。便利なもので、ドイツに着いてから携帯電話を操作すれば利用できるが、真夜中に舞鶴から何度か掛かってきたのには閉口した。通話のどちらにも高額の国際通話料金が掛かるため、そのように言って失礼ながら早々に通話を切らせていただいた。

まず、初日の10月1日(土)、関空から午前10時発のルフトハンザ航空に乗り込み約1時間半かけ、ロシア上空を通過し、ドイツの空の玄関口フランクフルトに到着する。テロ対策であろう厳重な持ち物・身体検査を受け、空港内で約2時間の待ち時間の後、ドイツ航空に乗り換えハンブルグ空港に約1時間で到着した。機嫌の悪そうな入国審査官に適当に答えて何とかパスし、ようやくドイツの土を踏む。夕方の6時を回っていた。ホテルに小型バスで向かう。ちなみに、ドイツでのホテルの宿泊はハンブルグで2泊、ロストックで2泊、ベルリンで1泊の全5泊である。

2日目の10月2日(日)、ハンブルグのアーコテル・ルビンホテル前を9時に大型バスで出発、我々旅行者5人にJTB添乗員(女性)とドイツ語通訳(ベルリン在住の女性)とで7人が大型バスで移動することとなった。日本では、この人数であれば当然マイクロバスを選択することになるが、ドイツではむしろ小型バスを探すのが困難とかで、更にはアウトバーンを運行する際に大型バスの方が安全であるとの説明があり、走って見て理解することができた。

ご存知かと思うが、ドイツの高速道路をアウトバーンと称するが、基本的に片側3車線で、原則速度は無制限である。但し曲線部等では制限時速170km等の表示が見られたので、細かく制限しているのが窺えた。その中でも、バスについては多数の乗客を乗せるせいか制限時速は100kmとの事で、確かに追抜く車が200km近くで瞬時に見えなくなるのに対して、安定した走りをしていたので危険を感じる事は一度もなかった。驚いたのはドイツの電力の30%を賅っているという風力発電の風車が沿道両側に林立していた事だった。原発に頼らないクリーンエネルギーを目指しているのが実感できた。しかし、ドイツ北部の日照時間の影響が太陽光発電装置は目にしなかった。



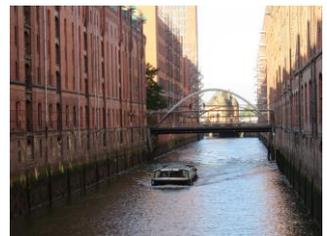
アウトバーン(片側3車線・速度無制限)



数えきれない風車(風力発電)が林立



ハンブルグ市内の道路清掃車



ハンブルグ市内の煉瓦建物

さて、早朝からのハンブルグ市内観光は、道路のゴミを掃き集める作業車があちこちで走りまわっており、作業車に気をつけながらの見学である。市庁舎、聖ミハエル教会、エルベ川沿いの煉瓦建物、街すべてが煉瓦建物である。圧倒された初日の見学となった。

約1時間半と駆け足でのハンブルグ市内観光を終え、いざ、最初のホフマン窯に向かう。一般道をひた走るが、両側に延々と続く景色は想像を絶する光景であった。日本で言えば合掌造りのような古くから保存されているのであろう茅葺屋根の煉瓦建物、同じ意匠で瓦屋根の煉瓦造りの建物、家の周りは塀などなく開放的で、庭はきれいに整備された青々とした芝生、絵にかいたような風景を延々と眺めた後には、広大な農地に広がるリンゴ栽培が続いた、ほどなく、昼食場所に到着する。ステイド(Stade)という歴史的街の中心部にあるラートハウス

で昼食を摂る。ボリュームのある食事とワインやビール、早々に食べ終え、時間予約しているホフマン窯に向かう。



沿道に同じ意匠の煉瓦建物が続く



ステードの町並み



昼食場所のラートハウス(地下)



あたり一面に広がる農地

約40分で農地の広がる中に煙突が見え到着したのが解る。

第1の目的であるホフマン窯視察を以下報告する。

(1) ホフマン窯 ドロホーターゼン「ルッシュ・クリンカー工業」を訪ねて

工場の概要は、1881年にマチアス・ルッシュがエリパ川左岸のドロホーターゼンに煉瓦工場を建設。1900年に22火室、長円形のホフマン窯を建造した。当時は、年間220万個の煉瓦を製造した。ホフマン窯は1982年に技術記念物に指定され保護され、現在も操業している。

案内人のエゴン・ヘンシエルさんは一見無骨な方で元警察官との事であるが、話し出すとやさしい口ぶりでこちらの質問にも丁寧に答えてくれる。説明内容はこうである。昔はエリパ川沿いに煉瓦工場が160か所ほどあった。第二次世界大戦中は、需要が多く一日200万個ほど製造していた。以前は4月～10月までの操業だったが、乾燥機を導入してからは3月～12月までと長くなった。以前は季節労働者を多数雇い入れていたが、今は、ドイツ人とロシア人の労働者12人と事務員5人である。燃料は石炭粉のペレットとチェリーの種など3種類である。土の配合割合は、工場前の畑の土80%、粘土10%、砂10%である。焼成後は17%縮小する。刻印は昔から無い。現在、製造した煉瓦は主に教会の修復用に使われている。乾燥は、以前は天日乾燥で4週間かかったが、乾燥機で4日間と短くなった。建設当時で残っている建物は技術記念物に指定され保護されている。ホフマン窯は長円形で長径は80m、短径は聞き逃した、主煙突の高さは60mで、22火室である。火は時計回りで煉瓦の窯詰作業は時計と逆回りである。窯内の温度は1200℃で、火室入口の二重壁内の温度は250℃である。現在、エリパ川沿いのホフマン窯で操業しているのは2か所である。もう1か所を聞いたところ、ピトムントのベルケ・クリンカーであると教えられた。

案内料は要らない代わりに工場受付に併設の喫茶コーナーでコーヒーとケーキを注文する事が案内の条件であるのでそのようにした。結構おいしいケーキではあったがボリュームたっぷり、半分食べるのがやっとであった。以下、写真をご覧ください。



正面の建物2階が案内所受付と喫茶コーナー、その奥がホフマン窯



煉瓦機成形・乾燥室工場別からホフマン窯を望む広大な農地



旧乾燥棟



新乾燥室(左)



ホフマン窯



ホフマン窯火室口



燃料の石炭ペレット



火室入口



窯詰された煉瓦



焼成後の煉瓦(煉瓦一枚をいただき持帰る)



旧煉瓦運搬用栈橋(エリハ川まで60m)



木製煉瓦運搬車



現在使用の運搬車



斜路でホフマン窯上部に至る



ホフマン窯上部(吸気が排気か?)



ホフマン窯上部



投炭口が並ぶ



石炭パレットと一輪車



温度計



燃料のチェリーの種



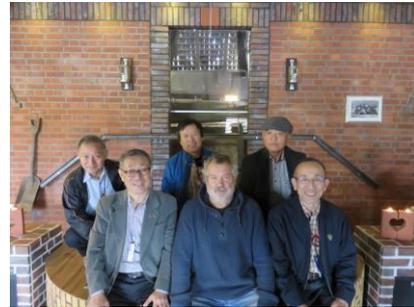
種を入れた瞬間に火柱が



屋根から光が漏れている。



天井に様々な成形用型枠が下げられている



前列中央が案内してくれたエゴン・ヘンシェルさん



喫茶コーナー・周りに写真や煉瓦を展示

3日目の10月3日(月)、ハンブルグのホテルを午前9時に出発、リュウベック経由でロストック市に向かう。リュウベック訪問は、同行者の河原輝雄さんの希望で急遽追加された。結果として、この旅にとって最高の煉瓦の町並み探訪となった。ちなみに、リュウベックは1259年、ロストックとヴィスマルとで「通商の安全確保」のための協約「ハング同盟」を結んだ中心都市である。夕刻ロストックに到着、パンタホテルに宿泊。詳しくは、次号で報告予定であるが、リュウベックの町並みの一部を紹介する。



リュウベックの町並み

4日目の10月4日(火)、ロストックの市内観光と、ロストック市庁舎を訪問し、多々見良三舞鶴市長から託された親書をロストック市長にお渡しする行事も含まれたが、今号ではホフマン窯視察を特集し、ロストック市訪問の詳細は次号とする。

(2) ホフマン窯 アルトグリーン「グリンドウ煉瓦会社、メルキッシュ煉瓦工場博物館」を訪ねて

5日目の10月5日(水)、まだうす暗い午前7時に大型バスで出発。ベルリン市南西のポツダム市近くに位置するホフマン窯に向かう。アウトバーンをひた走る。両側の広大な農地に林立する風車が延々と続く。ドイツがクリーンエネルギーを以前から推進しているのを肌で感じる。午前9時半にアルトグリーン「グリンドウ煉瓦会社」に到着する。予定より早く着いたため案内人を駐車場で待つ。ほどなく出勤してきた案内人に促され視察を開始する。外部の写真撮影は良いが、工場内の撮影は厳禁といきなり告げられガッカリする。

しかし、工場内に入り目に入った作業にくぎ付けとなった。2人の頑強そうな労働者がペルトコンペアで運ばれてくるやわらかい土を持ち上げ日本でもかつて使われていたのと同様の木枠に叩きつけ、弓型の器具で上部を切断し余分な土を取り除き、横に置かれた長い板に型枠から外し置くという作業を延々と続けていた。今でも機械化せずに手作業で煉瓦を成形しているのを目の当たりにして感動する。工場は 25

人が務めているとの事で、教会等の建物の修復用煉瓦を全てオリジナルで製造しているとの事で、現に女性が一個ずつ異形煉瓦を丁寧にヘラ状のもので成形していた。ベルリンやポツダムの建物に黄色煉瓦が多用されているが、この工場付近の土の成分の関係で黄色の煉瓦となり多く使われたとの事であるが、現在は赤煉瓦を製造しているとの事である。1868年築造のホフマン窯はヨーロッパで最も古い円形のホフマン窯2基があり、1962年に創業停止した後1991年に修復が行われ14火室の第2窯が再び操業を開始している。現在は一日千個ほど製造。80℃で一週間程度乾燥し、1060℃で4日間燃焼し一室当たり2週間で3千個まで製造、一室当たり1.5トンの石炭を使用している。投炭口からの石炭粉の投入はタイマーで管理され機械化されていた。この工場敷地内には1890年に造られた高さ20mの塔があり博物館として煉瓦の製造工程やグリンドウ地域の煉瓦生産の歴史等を展示していた。特に目を引いたのが、ホフマン窯の発明者であるフリードリッヒ・ホフマンさんの我々おなじみの顔写真と経歴や自筆の資料等がパネル展示されていたことであった。



博物館職員から工場案内を受ける



ホフマン窯全景



ホフマン窯入り口より見学



技術記念物指定の銘板



ホフマン窯と煙突



工場で製造した煉瓦で造ったオブジェ



メルキッシュ煉瓦工場博物館



博物館内展示の発明者ホフマンさんの展示パネル

約2時間のホフマン窯工場視察を終え、一路ベルリンに向かう。以降のベルリン見学も次号にて報告する。翌日は、帰路につく事に。以上、今号では、旅行全体の流れと操業中のホフマン窯の視察を特集して報告に替えさせていただき事とした。平成29年正月発行会報99号で第2弾として、赤煉瓦の町並み探訪と、8年前から交流を深めているロストック市への訪問およびベルリンの壁等ベルリン見学を報告する予定である。

2. トピックス **事務局**

- 「舞鶴赤煉瓦ジャズ祭20年のあゆみ」冊子発行 会員様には無料でお渡しします！
1991(平成3)年に市民組織で始めた赤煉瓦ジャズ祭も回を重ね開催したが、20回目の2010(平成23)年を最後に惜しまれて幕を降ろした。この市民主体で開催した画期的なイベントを記録集としてまとめ9月18日に発行した。この赤煉瓦ジャズ祭が市内外から高く評価され、今日多くの観光客で賑わう赤れんがパーク整備の火付け役となったのはご存じのとおり。今後若者が新たなまちづくりを企画する際に役立てればと考えている。この冊子は、会員には無料でお渡しする。舞鶴市内の会員には可能な限り手渡しを原則としたいと考えており、希望日時を事務局までご連絡ください。おおむね今年中にお渡しできればと考えている。市外の会員には郵送料(360円)が掛かるので、同封する郵便局払込取扱票にてご負担いただければ幸いです。
- 奈良市少年刑務所が国の重要文化財に指定 文化審議会が10月21日に、現存する最も古い刑務所で奈良少年刑務所として使われている旧奈良監獄(1908・明治41年完成)など10件を重要文化財に指定するよう文部科学省に答申した。
- 赤煉瓦ネットワーク半田大会に10名が参加予定 11月5日・6日に愛知県半田市で開催される大会に、舞鶴から10名が参加予定である。旧カプトビール工場を半田市が購入し改修工事を進め、昨年7月から常時公開している。次号で大会の報告をします。

3. その他 **事務局**

編集後記 今号では、ホフマン窯特集として、出来るだけ写真を多く、大きく見やすいようにと工夫したつもりです。そのため、旅のすべてを報告することができませんでした。次回の正月号で赤煉瓦の町並み探訪やロストック市庁舎訪問を中心に報告させていただきます。今号のために原稿をいただいた小野さんの記事は次号に掲載させていただき予定です。(H.B)

会員資格： 会費納入者(特別会員は除く)。入会金1,000円、年会費(個人2,000円、法人10,000円)。
 なお、会員申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。ご寄附も受け付けます。
 会費・寄付金等 振込先： ゆうちょ銀行 口座番号 (01010-6-21476) 加入者名： 赤煉瓦倶楽部舞鶴